令和２年第１０回

教育委員会（臨時会）会議録

交野市教育委員会

１．招　　集　　令和２年８月５日（水）午後１時００分

２．開　　会　　令和２年８月５日（水）午後１時００分

３．閉　　会　　令和２年８月５日（水）午後４時２０分

４．出席委員　　北田　千秋教育長
亥埜　誠治委員
伊丹　香寿美委員
長谷川　深雪委員

５．事務局　　大湾喜久男　教育次長兼教育総務室長・足立多恵　学校教育部長・西井大介　教育総務室長代理・大隅昌之　指導課長・原和広　課長代理

６．議事日程　　日程　１　　会議録署名委員指名
日程　２　　会議時間決定
日程　３　議題第３７号　令和３年度使用交野市立小中学校教科用図書の採択について

７．議事内容

北田教育長　　皆さん、こんにちは。それでは、只今から令和２年第 10 回教育委員会　臨時会を開催したいと思います。
開催の前に、事務局から本日の出席状況を報告願います。

西井室長代理　　出席状況を報告いたします。本日の出席者は４名でございます。同時に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第３項の規定により本会議が、成立いたしますことをご報告いたします。

北田教育長　　報告はお聞きのとおりです。
次に、本日のこの会議でございますが、地教行法第１４条第７

項の規定により公開にしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　ご異議がございませんので、公開したいと思います。
本日は、傍聴の希望がございますので、許可したいと思います。
事務局、準備をお願いします。
只今から、令和２年第 10 回教育委員会　臨時会を開催いたします。本日の会議は、お手元に配布しております議事日程に従い進めたいと思います。
まず、日程１「会議録署名委員指名」を議題といたします。
会議録署名委員の指名につきましては、交野市教育委員会会議規則第２０条の規定に従い、教育長が指名することとしてよろしいでしょうか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　ご異議がありませんので、亥埜委員を指名します。
次に、日程２「会議時間決定」を議題といたします。
会議時間決定につきましても、教育長一任とさせていただいてよろしいでしょうか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　ご異議がありませんので、只今から午後４時までといたします。
続いて、日程３　議題第３７号「令和３年度使用 交野市立小中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。
事務局の説明の前に、傍聴の皆様にお知らせいたします。
会場入口に掲示していますとともに、入口で配らせていただき

ましたプリントにあります記載内容を遵守していただきますようお願いいたします。
それでは、事務局説明願います。

原課長代理　説明に先立ちまして、資料の説明をさせていただきます。

資料1-1　義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令
資料1-2　令和3年度使用教科書の採択事務処理について（通知）
資料2-1　義務教育諸学校における令和3年度使用教科用図書の採択について
資料2-2　令和3年度使用義務教育諸学校教科用図書採択の基本事項
資料3　令和2年度使用小学校教科用図書一覧
資料4　令和2年度使用中学校教科用図書一覧
資料5-1　交野市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会条例
資料5-2　教科書採択方式（1市1採択地区）について
資料6-1　令和3年度使用小・中学校教科用図書について〈答申〉
資料6-2　令和3年度使用中学校教科用図書について〈総合所見〉
資料6-3　令和3年度使用中学校教科用図書について〈一覧〉
資料7　令和3年度使用教科用図書（中学校）調査報告書
資料8　令和3年度使用中学校教科書について〈学校所見〉
資料9　令和3年度中学校教科書見本本の発行者別一覧
資料10　令和3年度使用小・中学校教科書展示会でのご意見

以上でございます。
それでは、提案の理由について説明させていただきます。
まず、令和3年度使用小・中学校教科用図書の採択について、説明いたします。
資料１－１「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令」第15条（同一教科用図書を採択する期間）に「種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第九条第一項に規定する教科用図書を採択する場合を除き、四年と

する」となっております。

また、本年度の採択につきましては、資料１－２文部科学省初等中等教育局教科書課長通知「令和3年度使用教科書の採択事務処理について」１（１）にありますように、「小学校用教科書の採択について、令和2年度においては、無償措置法第14条の規定に基づき、無償措置法施行規則第6条各号に掲げる場合を除いて、令和元年度と同一の教科書を採択しなければならないこと」とあります。

また、（２）にありますように、「中学校用教科書の採択について、全ての教科書について採択を行うこと」とあります。

このたびの中学校教科用図書を採択する基準につきましては、資料２－２１（２）ア～エに示されております。本市は、エの１市町１採択地区の教育委員会となりますので、その場合には、２（２）に定める教科用図書選定委員会運営要領によることに当たります。次ページの２（２）をご覧ください。２（２）にありますとおり、１市１採択地区の教育委員会は、教科用図書選定委員会を設置し、教育委員会の諮問により、教科用図書の調査及び研究を行いその選定に関しては教育委員会に意見を答申することとなっております。

また、資料５－１の第３条にありますように、選定委員会の委員は、教育委員会の事務局職員、交野市立学校の校長そして交野市立学校に在籍する児童または生徒の保護者となっており、幅広く意見を頂くことになっております。

第８条では教科用図書の調査研究を行う際、専門的な調査研究を行うため、調査員を置くことができるとなっております。

なお、資料２－２の２（１）カでは、調査員は、採択が適正に行われるために、府が提示する中学校教科用図書選定資料を活用し必要な調査検討を行い、適切な資料を「キ」による調査研究委員会又は協議会に報告することとなっております。

地域の生徒にとって最も適した教科用図書を採択するために、選定委員会として意見をとりまとめ、教育委員会へ答申を行い、

教育委員会にて採択することとなっております。
以上、提案説明とさせていただきます。

北田教育長　　提案の説明が終わりました。質疑を受けたいと思います。質疑はありませんか。
質疑はございませんので、それでは、只今の説明に基づき、中学校の教科用図書から採択を進めたいと思います。
配付させていただいております交野市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会からの答申について、委員長より報告を受けたいと思います。

足立部長　　それでは、「交野市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会」の調査研究結果について報告させていただきます。
資料6-1をご覧ください。令和3年度使用小・中学校教科用図書について（答申）
交野市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会条例第2条に基づき、令和2年5月28日（木）、交野市立青年の家 研修室202において、第1回交野市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催し、①公正確保の観点から当会を秘密会にすること、②各種目別に調査員をおいて専門的な調査・研究を行うこと、③参考資料として、学校からの所見を求めること等を決定いたしました。
各種目において、3名の調査員により専門的に教科用図書について調査・研究が行われ、7月8日（木）の第2回選定委員会、7月10日（金）の第3回選定委員会にて、調査員からの調査報告書に基づく口頭報告を受けました。各種目の調査報告書等を基に適正かつ公正に審議を行いました。
7月17日（金）に開催した第４回選定委員会にて最終審議し、令和 3 年度使用中学校教科用図書は別紙のとおりに取りまとめるとともに、令和３年度使用小学校教科用図書は、現在使用している教科用図書がふさわしいと取りまとめましたので答申いた

します。以上です。

続きまして、資料６－３の一覧につきましては、発行者別に教科用図書の所見をまとめたものでございます。資料６－２の総合所見をご覧下さい。種目ごとにご報告いたします。

１．国語　学習指導要領の国語科の趣旨をふまえ各発行者ともＡ領域（話すこと・聞くこと）Ｂ領域（書くこと）Ｃ領域（読むこと）においてそれぞれに工夫を凝らし独自性を打ち出している。

その中でも光村図書は、「学習の見通しをもとう」では、教材と領域、身に付けたい言葉の力や学習のポイントが示されており、「文法を生かす」や「学習を広げる」などで学習内容を深めたり、社会生活に生かしたりするよう配慮されている。１年生の冒頭には取り組みやすい詩が取り上げられ、続いて登場人物が生徒と同世代の物語文が取り上げられるなど、生徒の興味関心を引き、主体的な学びへと進むように工夫されている。古典の学習においても、生徒の興味関心を高めるために、様々な資料が掲載されており、学習に取り組みやすい工夫がなされている。

教育出版では、「学びのチャレンジ」では、さまざまな文章や資料を読みながら、考える力や目的に応じて判断する力、表現する力を高める問題を取り上げている。また、全学年で扱われている「持続可能な未来を創るために」では、各教材がどの目標と関連しているのかを示している。

２．書写　各発行者とも学習指導要領の国語科の趣旨に沿った対応がなされている。

その中でも光村図書は、「①考えよう」「②確かめよう」で書き方のポイントを学び、「③生かそう」で学んだことを日常生活に生かす構成となっており、「学習の窓」で学ぶポイントが示されている。また、ノートの書き方や本の帯などの作例及び送り状の書き方など書写で習得した知識・技能を他の場面で役立てる方法をイメージできるようになっており、日常生活に生かすことができるよう工夫されている。硬筆練習帳「書写ブック」では毛筆教

材と同じねらいをもった別の硬筆文字を学ぶことができるように配慮されている。

東京書籍は、目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについては、失敗例を提示するなど、視覚的にわかりやすく示し、考えたり話し合ったりする活動が設けられている。また、「生活を広げよう」で、案内の手紙や本のポップ、パンフレットなど日常生活や学習活動に役立つ活動が取り上げられている。

３．社会（地理的分野）各発行者とも学習指導要領の社会科（地理的分野）の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも教育出版は、「世界の諸地域」の学習において、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国などについて詳しく取り上げられており、隣国について理解が深まるよう工夫されている。また、阪神・淡路大震災、東日本大震災だけでなく、熊本地震や北海道胆振東部地震に触れ、多くの災害から学ぶことができ、防災に対して意識が高まるよう工夫されている。

帝国書院は、生徒が自主学習につなげたり、社会の課題解決に向けて主体的に関わったりすることができるコーナー「私たちとの関わり」や特設コーナー「地域の在り方を考える」、コラム「地理プラス」が設けられている。また、節ごとに「二次元コード」が記載されており、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができ、知識・理解が深まるように工夫されている。

東京書籍は、単元を貫く「探求課題」や１単位時間の「学習課題」が明確に設定されており、「チェック」、「トライ」など課題解決への道筋が細かいステップで示されている。

４．社会（歴史的分野）　各発行者とも学習指導要領の社会科（歴史的分野）の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも教育出版は、第１章において小学校で学習した歴史的人物や文化遺産の写真を時代の流れに沿って「歴史すごろく」で示し、歴史の大きな流れをとらえられるようにし、「歴史にアプローチ」で調査、考察、まとめの仕方について説明している。また、近隣諸国や琉球・アイヌといった関係の深い民族の歴史、

国内に現在も残る差別などについて丁寧に説明しているなど、人権教育につながる教材が取り上げられている。各章末の「学習のまとめと表現」では、時代の移り変わりが見開き２ページで大きく示されていて、学んだ時代の歴史の動きが大観できるよう工夫されている。

帝国書院は、時代の特色が一望できる「タイムトラベル」を設けて、当時のくらしの様子や次に学習する時代のイメージがもてるよう工夫されている。「確認しよう」「説明しよう」では、本時の学習での習得事項を確認する作業課題や、学習内容を活用して思考することを促し、自分なりに判断・表現する問いを設けるなど工夫されている。また、大きな地図上で歴史事項を確認できるなど、地理的分野と関連づけて学習できるよう配慮されている。東京書籍は、近隣諸国や琉球王国・アイヌ民族といった関係の深い民族の歴史、国内に現在も残る差別などについて丁寧に説明している。

５．社会（公民的分野）　各発行者とも学習指導要領の社会科（公民的分野）の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも教育出版は、平等権を学習する際に「差別をしない」「差別をさせない」「差別のない社会をつくる」ことをめざした内容を取り扱う等、人権教育につながる教材を多く掲載している。各章「学習の見通し」で示した学習する際の視点、また、本時の学習の中心となる資料を「LOOK！」の解説文とともに紹介し、生徒が興味関心をもって学習できるように工夫されている。帝国書院は、見開きの左上に導入となる写真や資料を大きく提示し、導入からまとめまで分かりやすいような構成になっている。「公民プラス」では発展的な内容を扱い、「アクティブ公民」では、ロールプレイング、ディベートなどを用いて考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。

東京書籍は、生徒にとって身近なテーマが多く取り上げられている。「導入の活動」で立てた単元を貫く探究課題に基づいて学

習を進められる構成になっている。

６．地図　各発行者とも学習指導要領の社会科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも帝国書院は、版が大きく地図の文字や資料が読み取りやすくなるよう配慮されている。また、色合い、コントラストがはっきりしており見やすくなっている。日本の地方ごとに「防災」についての資料があり、学習指導要領の社会（地理的分野）と関連して学習ができるよう工夫されている。また、「地図活用」コーナーの問いを通して、生徒が資料を読み取ることで、資料活用能力を高め、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。東京書籍は、地理的分野の教科書の構成に沿って「世界全体」と「日本全体」の内容が構成されており、世界と日本の古代・中世の陸上・海上交通など、歴史的なつながりについて学べるよう工夫されている。また、写真やグラフが豊富で、資料集として活用できる。

７．数学　各発行者とも学習指導要領の数学科の目標達成に必要な内容が取り扱われており、課題の設定について工夫されている。

その中でも東京書籍は、１年では０章「算数から数学へ」において小学校で履修した素数から中学校の学習内容である素因数分解へとつなげられており、小中のつながりを意識した構成となっている。また、単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見いだし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。立体の学習に使用する巻末の立体図が厚手の紙を使用し、実際に立体を作成しやすくなるよう工夫されている等、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。

啓林館は、生徒が主体的に学習することができるよう、裏表紙を先頭にして上開きの「自分から学ぼう編」が配置されており、自分で学習した内容を記入できる学びのあしあとや応用問題、発展問題が取り上げられている。

８．理科　各発行者とも学習指導要領の理科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも東京書籍は、巻頭に探求の過程や進め方を示しており、探究活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、日常生活と関連させたり、キャラクターを用いてヒントを示したりするなど工夫されている。新たな判型で、観察・実験の流れや手順が見やすくなるように配慮されている。また、見開き２ページで１時間配当となるよう構成されており、見通しを持って授業を構成できるよう工夫されている。

啓林館は、実験の結果や考察を教科書に直接書き込むことができる部分が多くあり、学習後の振り返りを丁寧に行えるよう配慮されている。また、「二次元コード」が記載されており、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができ、知識・理解が深まるように工夫されている。

９．音楽（一般）　各発行者とも学習指導要領の音楽科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも教育芸術社は、１年では斉唱、混声２部・３部合唱から、２・３年では混声４部合唱と、生徒の変声や発達段階に配慮された曲が配列されていて、合唱コンクール用の曲としても扱いやすくなっている。また、巻頭の「学習内容」では、各教材とねらいとする資質・能力との関連が分かりやすく示されており、「深めよう！音楽」では、音楽的な見方・考え方を働かせながら、思考判断し、表現できるように工夫されている。

教育出版は、歌唱及び合唱の学習が段階的に深まるように工夫されていて、生徒の変声や発達段階に配慮した選曲になっている。自分の考えを記録し、発表したり交流したりすることで、協働的な活動が展開できるよう配慮されている。

10．音楽（器楽合奏）　各発行者とも学習指導要領の音楽科の趣旨に沿った対応がなされている。

その中でも教育芸術社は、学習のねらい、教材、曲を通して、音楽活動の基礎的な知識や奏法を段階的に身に付け、力を伸ばす

ことができるように工夫されている。学習するための活動ポイントが側注に示され、それぞれの学習活動を通して何を学ぶのかが明確にされている。巻末の「音楽の約束」では、用語や記号が示され、既習内容を振り返ることができるよう工夫されている。

教育出版は、我が国と他国の文化を尊重し、多様な他者と協働していくことができるよう配慮されている。音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。

11．美術　各発行者とも学習指導要領の美術科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも日本文教出版は、生徒が継続して学んでいけるよう配慮された「美術との出会い」「学びの実感と広がり」「学びの探求と未来」をコンセプトとした構成になっている。また、身近な題材が多く取り扱われており、生徒が教科書の作品に親しみを感じることができるよう工夫されている。単元ごとに育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた目標が示されており、各題材において、作者の言葉により見方や感じ方を深められるように工夫されている。

光村図書は、鑑賞では、題材を通して、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質、日本と諸外国との美術及び文化の相違点や共通点に気付くことができるよう配慮されている。また、作品をつくる際の安全確保や事故防止など、注意が必要な作業内容についてわかりやすく記載することで、安全に配慮されている。

12．保健体育　各発行者とも学習指導要領の保健体育科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも東京書籍は、「見つける」を用いて、資料や写真を提示することで、生徒に主体的に学習課題を捉えさせるよう工夫されている。「活用する」では、生徒同士が話し合いに興味がもてるようにして、学習したことを生かして取り組めるよう工夫されている。教科書の内容についてインターネットを使った学習ができるよう、「Ｄマークコンテンツ」が設けられているとともに、

教科横断的な学習に取り組めるよう工夫されている。

大日本図書は、各章の最初に、小学校から中学校、高校で学習することが明記されており、生徒が学習のつながりを意識して取り組めるよう配慮されている。また、小単元「喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけ」では、イラストを効果的に示し、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。

13. 技術・家庭（技術分野）　各発行者ともに学習指導要領の技術・家庭科（技術分野）の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも教育図書は、学習のめあてやキーワードが示され「つくって学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」に分類され学習の流れを捉えて段階的に学べるようになっており、フォントの大きさや色など生徒が理解しやすいように配慮されている。また、プログラミング学習や情報モラルについて、実習例や事例等が多く取り上げられている。別冊ハンドブックには、コンピュータ等に関して基礎的な技能がまとめられており、本冊の教材に合わせて使いやすい構成になっている。

東京書籍は、ガイダンスとして、技術の学習方法や安全面を重視した内容が取り扱われており、最適化から問題解決につながるように工夫されている。また、実習例が多く記載されており、写真やイラストが手順に沿ってわかりやすく表示され、技能のページに「TECHLab」という基礎的な技能を確認できるように配慮されている。

14. 技術・家庭（家庭分野）　各発行者ともに学習指導要領の技術・家庭科（家庭分野）の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも開隆堂は、生活の自立に必要な基礎・基本を的確に押さえており、ロールプレイを通して、家族や周囲の人との関わりを考えられるように工夫されている。ユニバーサルデザインに基づいた記述や人権意識に配慮した内容となっており、「考えてみよう」では、生徒が自ら考え問題解決学習に取り組める工夫が

されている。また、小学校の学びが、詳しく記述されており、また、消費者トラブルとその対策についても丁寧に記述されている。

教育図書は、文字数やフォントの大きさや色を工夫し、誰もが見やすく生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。実習や消費生活では、写真やイラストを効果的に示し実生活とリンクさせることで生徒が理解しやすい工夫がされている。

「話し合ってみよう」「考えてみよう」では、実践的・体験的な活動を通してグループワークなどの言語活動が行えるように工夫されていることも特徴の一つである。

15. 外国語　英語　各発行者とも学習指導要領の外国語科 英語の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも東京書籍は、「Unit0」などで、小学校で学んだ英語表現を復習することができるようになっており、小学校でふれた単語が使用されている場合は、当該ページの下にその旨を記載するなど工夫がみられる。5 領域を意識した「Let's シリーズ」では、日常的、社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取り上げられている。文字が大きく見やすくなっており、また、ページごとに二次元コードが配置され、生徒が理解しやすい工夫がされている。

三省堂は、新出の文法事項は、「とびら」の写真等から気づきを促すようになっており、「Point」や「文法のまとめ」でまとめられている。1 年の「Lesson」の導入では、小学校で体験した場面での対話や発表を聞いて学習内容を振り返る設定になっており、小学校との接続を重視した内容となっている。

教育出版は、「Think＆Try!」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年 2～3 つ配置している「Project」においても、生徒どうしの学び合いを促すよう工夫されている。巻末の「Activities Plus」では、マスキングシートを活用して、重要語句や文、表現等を反復して学習できるよう工夫されている。

開隆堂は、1 年冒頭の「Get Ready」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。国際理解を深める題材やSDGs に関連した題材、マララ・ユスフザイさんの演説など多面的でグローバルな視点をもてるような題材が取り扱われている。

16．道徳　各発行者とも学習指導要領の道徳科の目標達成に必要な内容が取り扱われている。

その中でも東京書籍は、「いのちの尊さ」と「いじめ」について、特に重点的に取り上げ、内容全 32 項目中６項目で取り上げており、年間を通じて学ぶことができる。また、学習したことをもとに「いじめ」を自分ごととしてとらえ、今後の学校生活に生かしていけるよう教材内容が工夫されている。教材文を読みながら自分の想いを書き込めるよう教材文の下に「つぶやき」欄を配置し、また、ホワイトボード、心情円を巻末に付け、それらを使って自分自身の考えや思いを表現しやすくなるよう配慮されており、話し合い活動などグループでの学びを深めやすくなるよう配慮されている。

日本文教出版は、いじめに重点を置き、教材を多く取り上げ、様々な角度からいじめについて考えることができるよう教材が工夫されている。教材を補充する「プラットホーム」や巻末の詩では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、さらに新しい考え方を生み出したり、発展的に学習を進めることができるよう工夫されている。

光村図書は、教材の冒頭に内容項目が示されており、生徒が見通しを持って学習できるよう工夫されている。また、「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」では、生徒が話し合うための視点が示され、考えを深めたり、行動につなげたりできるよう工夫されている。全学年でいじめを扱った教材や関連する教材、資料が扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。

教育出版は、「生命の尊さ」「いじめや差別のない社会」等につ

いては、特に深く考えたいテーマとして多く扱われ、また目次に特別なマークを施し、生徒が意識しやすくなるよう工夫されている。教材ごとに「学びの道しるべ」や学期末、学年末に振り返りを記録する「道徳の学びを振り返ろう」等が設けられ、自らの成長を実感したり、今後の課題、目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。

以上、報告させていただきます。

北田教育長　　ありがとうございました。説明が終わりました。

採択の種目が多くあります。総合所見にあった順番で、中学校の 16 種目を採択するわけですので、途中、８種目目の理科が終わったら感染防止対策のための換気も含め 10 分程度の休憩を取ります。

お手元に見本本があります。すでに何度か見ていただきましたが、先ほどの総合所見等がお手元にありますので、総合所見を聞いていただき、再度確認したい点もあるかと思います。

お手元の付箋等で理科までの８種目について、再度お気づきの点などを確認していただいた方が話し合いがスムーズかと存じます。

後半の音楽（一般）からの８種目は 10 分休憩の際に確認いただくことにして、まず、今から５分ほどお時間を取りますので、理科までの８種目の確認をお願いします。

それでは、まず国語から、見本本を見ていただきながら採択を行いたいと思います。

昨年度、小学校の国語の教科書採択の時に委員から「統計資料やグラフなどの複数の情報を見る中で考えて自分なりの答えを導き出すプロセスは、とても大切」との意見がありました。

また、今年度はなかったんですが、昨年度は全国学力学習状況調査の国語の特徴的な問題として例示されている「みんなの短歌」でのねらいとして、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと」「情報を整理し内

容を捉えること」「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと」としています。

こういう能力が身につけられる教科書かなども採択の際の参考にしていただければと思います。

では、国語について、ご意見お願いします。

伊丹委員　どの教科書もそうなんですけれども、最初の方に１年間の学習目標なんかが書いてあるんですけれども、光村図書の１年生のP.6 なんかを見てもらうと、最初に見開きの形で１年間でこの教科書でどんな勉強をするかを整理してあって、話すこと、聞くこと、書くこと、読むことなどに分けて、なおかつどの教材があてはまるかが書いてあって、それを見ると、その単元・教材でどの目標を持って学ぶかということがわかりやすいので見通しをもって学習できると思います。

北田教育長　光村図書は巻頭で見通しを持って学習できるのではないか、ということですね。

長谷川委員　光村図書は、各学年 P.10 の「思考の地図」で考えを広げる・整理する・深める構成になっていて、例えば、どう考えていいのか分からないときの道順といいますか、考えを止めないで進めていく上では、これは分かりやすいように工夫されているのではないかと思いました。

北田教育長　地図という名前だけども、道しるべになるということですね。他にいかがでしょうか。

亥埜委員　「１年間の学習の見通しをもつ」という部分では、東京書籍の各学年 P.6～P.9 にも分かりやすく１年間の学びを詳しく表にまとめられていると思います。

北田教育長　　東京書籍は、１年生から小学校で学んだことを書いていますが、２ 年生では「一年で学んだこと」「二年で学ぶこと」ということで巻頭にありますし、３ 年生では「一～二年で学んだこと」「三年で学ぶこと」が巻頭にあり、生徒の意識づけをする工夫がされていますね。巻頭は光村図書よりすっきりしているように感じます。

伊丹委員　　巻頭でいうと、小学校を卒業して、最初に中学校で国語を学ぶ、と考えたとき、光村図書は「朝のリレー」から「野原をうたう」という、比較的取り組みやすそうな詩からスタートしていて、生徒たちが意欲的に学びをスタートできるように工夫されていると思います。

北田教育長　　出だしの部分ですね。他にいかがですか。

亥埜委員　　いま、伊丹委員もおっしゃいましたが、スタートが光村図書は工夫されていて、「朝のリレー」は他の発行者にも掲載されていますが、光村図書は１年生の教科書の表紙の裏にあり、これから始まるという意識をされているのかなという気がします。

北田教育長　　先ほどの総合所見では、教育出版の教科用図書が挙げられていましたが、教育出版はいかがですか。

亥埜委員　　教育出版で面白いと思ったのは、１年生の P.226 では「漫画で物語を表現する」という単元があり、生徒にとって親しみやすく、進んで学習を進められそうな教材が取り扱われていますね。

伊丹委員　　教育出版は、1～3 年生すべてに「言葉の地図」というのが載っていて、教科書をどういうふうに使うのかというようなことが書かれていて、使いやすいように意識されているのかと思います。教材によって、どの発行者もそうなんですけれども、教材ご

とに目標を題名の下に書いてあったりするんですけれども、教育出版は教材の前に「学びナビ」のページがあって、読み方や学び方が詳しく書かれています。そこを読むとなんとなく流れがわかるというところでは生徒にとってはいい面でもあると思いますが、一方で、先生によっては使い方が難しいというか考えさせられるような、そういう点では使いにくいというところもあるのかな、というような気はします。

北田教育長　「学びナビ」は勉強に関しては、もっと自由に考えさせたいということもありますね。
　他の発行者はいかかでしょう。

長谷川委員　三省堂は 1 年生のはじめの作品が「竜」。光村図書は「シンシュン」。要するに登場人物の心情の変化を読み取ることを求められているんだと思いますが、三省堂「竜」の方が生徒には受け入れやすいように感じます。
　他にも戦争の悲惨さを取り上げる作品として三省堂は１年生 P.78「字のない葉書」向田邦子さんを選んでいます。光村図書は、１年生 P.96「大人になれなかった」米倉斉加年さんの作品です。自分の考えを広げていってほしいと思いますが、私は、生徒にとっては「字のない葉書」の方が、戦争の悲惨さが子どもの感情として分かりやすいのではないかという印象を受けました。作品の選び方としては三省堂がいいように感じます。

北田教育長　いま、向田邦子さんや米倉斉加年さんの作品が出ましたが、本市では、図書館の活用や読書活動にも力を入れている部分ですが、その点はどうでしょうか。

長谷川委員　光村図書は、１年生 P.90～91 に「本の世界を広げよう」というコーナーがありますが、生徒自身の生活に合わせて本を紹介する構成になっていて、自分の生活と重ね合わせて面白いと思いま

す。

北田教育長　　他にいかがでしょう。

亥埜委員　　光村図書１年生 P.190 では、「考える人になろう」で「君たちはどう生きるか」や「たのしい制約」の冒頭が掲載されており、続きはこちら、として紹介して、興味があれば読書にもっていけるような工夫がされていると思います。

北田教育長　　光村図書もその辺は工夫していますね。冒頭で申し上げたように、いま必要な力、「根拠を持って考えを出すとか」「情報がある中で考えて自分なりの答えを導き出す」「根拠を明確にして自分の考えをもつこと」「情報を整理し内容を捉える」「ものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」、という力の育成という意味ではいかがでしょう。

伊丹委員　　書く力というのは、本市だけでなく他市もそうですけれども、子どもたちの学習の中で課題だとずっと言われ続けていて、国語というのは書く力を養うための一番力がつく科目だと思うんですけれども。その中で光村図書をみていますと、例えば１年生の P.32～37「情報を整理して書こう」、P.138 ～143 での「根拠を示して説明しよう」では、情報整理のレッスンなどがあって、こういうふうに情報を自分なりに整理して表現していくというような、書き方に関して誘導があるので、こういうのも使いつつ、書く力を身に付けていけるのかな、と思いますし、ここは、書く力がしんどい生徒に関しては、非常に役立つのではないかな、という感じがします。

北田教育長　　図書館の活用や書く力についても含めて、国語については、みなさんのご意見をまとめると光村図書出版「国語」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「国語」については、光村図書出版「国語」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
それでは、次に書写の採択を行いたいと思います。まず、判がちがいますが、大きさについてはいかがでしょう。

亥埜委員　　東京書籍と教育出版は判が大きく、配置にゆとりがあり、書き込み練習の欄が多いですね。
一方、光村図書と三省堂は、B5 版と同じ大きさになっていて、机に見本として並べた場合、邪魔になりにくいので、それぞれに利点があるなと思います。

北田教育長　　たしかに、それぞれの利点がありますね。では、その他、ご意見をお願いします。

長谷川委員　　１年生の冒頭部分では、どの発行者も小学校の学習を振り返りながら、中学校３年間の書写で何を学ぶのかを丁寧に説明しています。

伊丹委員　　光村図書と三省堂とを比べてみますと、三省堂の P.38、光村図書が P.56 なんですけれども、どちらも「一」の書き方なんですけれども、光村図書の方が大きく触れられていたりとか、筆の運び方が丁寧に書かれていて見やすくなっているイメージがあったので、もし使うとしたら、見やすい方がいいのかな、と思います。

北田教育長　　今三省堂と光村図書を比較されましたけれども、比較で言えば、「天地」を比べると、光村図書より教育出版の方が分かりやすいように感じます。教育出版はP.16、光村図書はP.40です。
大きさもそうですけれども、字のバランスも上手く示されていて、教育出版の方が書きやすいかな、と思いました。

亥埜委員　　光村図書の書写ブックについてですが、総合所見にもありますが、毛筆で学習したものを硬筆で練習できる欄があるのがいいと思います。

伊丹委員　　三省堂のP.44のように他の発行者も毛筆で学んだことを硬筆につなげることを意識しているように思いますが、光村図書は書写ブック右上に教科書の対応ページが示されています。
毛筆のどの学習とつながっているのかがとても明確に示されていて、主体的に学習を進めやすいのではないかと思います。

長谷川委員　　光村図書でP.96に「文字の使い分け」があります。P.104には「私の好きな言葉」と、選ぶページがあります。自分の考え、自分らしい表現、などを、文字の使い分け、P.98の「UD書体って何だろう」では、文字によってどう表現が出来て、それによってそれを見た人がどのように受け止めるか、どう印象を受けるのか、という事まで考えられる単元だと思います。特にUD書体、教科書の後ろにもUDフォントと書いているんですが、多分気づかずにみんないってしまうと思うんですが、そういうのもちゃんと気づける、学べる単元に工夫されているのではないかと思いました。

北田教育長　　書写については、みなさんのご意見をまとめると光村図書出版「中学書写」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「書写」については、光村図書出版「中学書写」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

それでは、次に社会（地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図）の採択を行いたいと思います。

これらを議論するにあたっては、社会という教科の性質から主体的に学べる構成になっているか、日々の生活や社会に活かせるよう工夫されているか、最新の資料や写真等で質の高い学びができ知識を得ることができるか、環境や防災、人権など世界各地で課題となっていることに生徒が主体的にアプローチできるような構成になっているかなどを踏まえた議論をお願いします。

では、地理的分野からご意見をお願いします。

亥埜委員　　地理で面白いと思ったのが、教育出版の P.52 を見ていますが、左上にその時間の学習に関連した写真や資料を大きく載せていて、「LOOK」という、その写真や資料の解説文がありますね。単元名の下に学習課題が書かれてあり、見通しをもって学習できるように工夫されています。

帝国書院では、P.2 学習課題が分かりやすく書かれており、地図も地図帳なみの地図でわかりやすいですね。写真が大きく鮮明で、生徒にとっても自ら学習を進めやすくなるように工夫されているように思います。

伊丹委員　　どの教科書も図や写真が多く使われ、資料も豊富なんですけれども、日本文教出版の、P.122 に京都の地形図が大きく掲載されており、身近な地域の調査方法も丁寧に説明されていて生徒の興味・関心が高まり取り組みやすいかと思います。

北田教育長　　日本文教出版は関西地方を掲載されていますよね。
他にいかがでしょう。

長谷川委員　　防災についてということですが、教育出版の P.142 からのようにはっきり、「地域の防災について調べよう」ということでは、身近なところからということで例が載っているんですが、最近ですよね。社会と防災というような、私たちのときにはなかったような気がするんですが、とてもこのようなページが設けられていることが興味深かったですし、また、防災の観点からみてみると総合所見にもありますが、P.158、159 にあるようにごく最近の災害、しかもわりとインパクトのある写真を選んでおられるといった印象です。情報も新しいものは、子ども達にとっては距離感も近いと思いますし、これだけ写真があるのも、内容も含めて特徴的ではないかと思います。

北田教育長　　つい最近も熊本の豪雨もありましたし、この辺では、大阪の北部地震もありましたし、防災面についてはとても大事な観点だと思います。
また、東日本大震災の時に、東北地方の工場が被災して日本の産業全体に大きな打撃があったことが報じられました。東北地方でみてみると、教育出版には P.252 に、東北地方のこれからの産業の変化について書かれていますが、我々のころ、昔は東北といえば農業が盛んでやませがあって冷害があって、などが載っておりましたけれども、高速道路沿線を中心に工業団地や大企業が進出していて、すごく変わっているんです。近畿地方に住んでいると分かりにくいですが、今までの東北地方の学習ではなく、特に東日本大震災以降は、これからの東北地方という視点は大事かと感じました。
他にどうでしょうか。

亥埜委員　　学習の振り返りのページについて比べてみると、どの教科書も

重要語句の確認や地理的な位置について、わかりやすく確認でき、最後に〇〇について考えよう、説明しようという流れになっていますが、その中で、帝国書院は、P.21、115 などの「説明しよう」の部分で、ステップを細かく設定していて、こういうようなのがあちこちにあって、自分で学んだものを自分のものにして、人に話せるぐらいに復習しようというような、段階を踏みながら、多くの生徒が確実に振り返りの仕方を説明できるよう工夫されているように思います。

北田教育長　　このP.21 などは、尖閣諸島や北方領土がありますが、今度の新しい学習指導要領でいいますと、日本の領土・領域についてということで、新しく付け加わった部分がありましたが、その点はどうでしょうか。

亥埜委員　　東京書籍 P.24～27 は、現在の自然豊かな写真と竹島の説明を詳しく載せています。教育出版は南東を上にした地図 P.25 を掲載していてとても興味深いですね。

北田教育長　　よく言われるのが、こういう地図で見ると、中国が東シナ海や南シナ海に出て行こうとするのがよくわかると言われます。中国から見ると目の前に日本列島があって海に出にくいということで、出口を求めていると言われたりもます。そういう意味では、こういう地図の見方も新しいです。
　最初に申し上げた、生徒自らが主体的に学べる構成になっているか、という点ではどうでしょう。

伊丹委員　　どの教科書も工夫されていますね。帝国書院と教育出版は、右下に毎時間「表現！」欄などでまとめがあって、それを見て話し合いを促していますね。QR コードがあったりして。学習内容の確認だけでなく、さらに自分の考えを説明させたり、深めさせたりする工夫がみられます。

長谷川委員　　教育出版では、総合所見にもありますように、P.214 など現代日本の課題について詳しく紹介され、課題解決に向けて話し合いをするというページがあるのが興味深いです。

あと、領土等の話があったと思いますが、P.52 に近隣諸国についての記述が詳しく書いてあるんじゃないかと思いました。一番近くて遠い国と言われるような国々のことを正面から取り上げる単元があってもいいのかな、と思いました。

北田教育長　　特に今は、いろいろな課題がありますので、そういう意味でもいいですね。

他にいかがでしょう。

伊丹委員　　中国や韓国、北朝鮮など近い国について、問題もまだまだあるとは言われていますけれども、むしろこれから未来をつくっていく生徒なので、偏見なく理解して、その上で関係を築いていってほしいと思うので、その辺の理解を深めるにはいいかな、と思います。

北田教育長　　近隣諸国の理解も必要ですよね。

亥埜委員　　帝国書院は、地図やコラムが充実しています。また、東京書籍は地理の出だしに写真が多く、生徒にとってイメージがわきやすいと思います。

その中でも、教育出版は、地理の学習に入る際に、小学校とのつながりを意識してつくられており、生徒にとってはスムーズに学習に入れるように感じました。

北田教育長　　たくさんの意見をいただきましたが、そろそろ、まとめたいと思います。みなさんの意見を総合しますと、教育出版「中学社会～地理　地域にまなぶ～」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「社会（地理的分野）」については、教育出版「中学社会～地理　地域にまなぶ～」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
それでは、次に社会（歴史的分野）の採択を行いたいと思います。社会（歴史的分野）について、意見はありませんか。

長谷川委員　　教育出版では、小学校でも歴史については少し触れたりしますが、P.18 、19 の「学習を始めよう」では縄文時代と古墳時代の特徴との比較が取り扱われています。小学校で触れて、「そうそう」と言いながら見るんだろうと思っているんですが、この比較のページのあとに世界の歴史について学びます。
小学校では、日本の歴史について学んだので、まず日本の歴史について復習し、世界の歴史について学ぶ流れなので取り組みやすい工程になっているのではないかと思います。また、例えばP.49 の右上、小学校で学んだ人物についてはマークをつけているのが、特徴かと思いました。

伊丹委員　　帝国書院は、P.24 、25 の「タイムトラベル」で縄文時代と弥生時代を比較させていて、右上に小学校で学んだ事項も記載されています。
世界の歴史を学んだ後、タイムトラベルで同時期の日本について学ぶという流れになっています。資料が大きいのも帝国書院の特徴だと思います。

北田教育長　　教育出版は小学校のつながりということで、マークがありまし

た。

教育出版はこういう絵があって世界の歴史を学びますが、帝国書院は世界の歴史があってタイムトラベルということで、流れを意識した配置ということで、他にいかがでしょうか。

亥埜委員　歴史の流れというものに着目するなら、教育出版には、単元名、学習課題のすぐ上に歴史スケールがありますが、見やすくていいと思いますし、歴史的背景を知る上でもいいと思います。

北田教育長　教育出版や帝国書院以外の発行者も工夫されていますね。日本文教出版は、最初の単元に入るまでが丁寧という気がします。準備させて丁寧に単元に入るという印象を受けました。

山川出版は、今まではどちらかというと、高校の歴史の教科書という印象でしたが、第一章として歴史との対話を入れて、今いる自分と歴史とのつながりを詳しく意識させるというところが見えるのかと思います。情報量も多い。我々大人が読んでも勉強になる感じがします。

育鵬社の「歴史モノサシ」はおもしろいと思います。また、「地域の歴史を調べてみよう」は、大阪で興味がわく構成になっています。

それぞれどの発行者も工夫されていると思いました。

長谷川委員　各教科書とも学習課題や振り返りを工夫していますね。また、写真、イラスト、地図をわかりやすく配置していたり、コラムやキャラクターを配置したりして、生徒にとって、歴史の学習が親しみやすさが特徴だと思いました。

亥埜委員　その中で章の学習の振り返りのページを見たとき、東京書籍と帝国書院は、学習したことを整理し、それを生かして、時代の特色を説明できるよう丁寧にステップを踏んでいると思います。

しかし、丁寧な分、説明が多いかなとも思います。どの生徒に

とっても取り組みやすいかは意見が分かれるところだと思います。

北田教育長　　全ての子どももそうですし、教員もあまりいっぱい書かれると、理解しにくいかもしれないですよね。
　他にいかがでしょう。

長谷川委員　　文字が多ければ、分かりにくさにつながってしまうという所でいうと、帝国書院は P.43 や P.99 などで、地図と併せて書いてあります。国の名前だけでなく地図を配置して時代を説明されていると、イラストも交えてとてもわかりやすいと感じました。

北田教育長　　そうですね。イラストも交えてわかりやすいように工夫しています。
　あと、人権的な視点という面ではいかがでどうでしょう。

亥埜委員　　どの教科書も大切に扱われていますね。帝国書院や東京書籍では、字は小さいですが、帝国書院だと「未来に向けて」の P.187、215 などで詳しく取り扱われています。

伊丹委員　　総合所見にあるように、教育出版は人権について深く考えることができるよう多くのページで工夫されているように思います。差別や偏見については、どの教科書でも大切に扱われていますが、教育出版は、P.283 にあるように本文の中で内容が扱われているのも大きな特徴の一つではないかと思います。

北田教育長　　人権的な視点は帝国書院、教育出版、東京書籍が出ました。
　これまでの種目でも議論してきましたが、生徒の主体的な学びにつなげていくという視点ではどうでしょうか。

長谷川委員　　教育出版は、P.5、57、P.92、93 のように時代の移り変わり

が見開き 2 ページにわたり、はっきりわかりやすくされているな、と思います。大事なキーワードなんかも一目瞭然ですし、やっぱり時代なんかも、テスト対策ですごく有効なんだと思いますけれども、すっきりして見やすく、自分からアプローチできるページではないかと思いました。

北田教育長　　お話の中では東京書籍、教育出版、帝国書院の名前が主に出てきましたが、整理させていただくと甲乙つけがたいだろうとは思いますが、今の流れでいきますと、人権的な視点とか、時代の流れのとらえやすさや、小学校のつながりから見ますと、社会（歴史的分野）については、みなさんのご意見をまとめると教育出版「中学社会～歴史　未来をひらく～」がふさわしいかと思いますが、いかがでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「社会（歴史的分野）」については、教育出版「中学社会～歴史　未来をひらく～」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

それでは、次に社会（公民的分野）の採択を行いたいと思います。

社会（公民的分野）について、意見はありませんか。

伊丹委員　　どの教科書とも、公民の学習を始めるにあたって、大切な視点を巻頭で述べていますね。

東京書籍は、巻頭１・２にあるように未解決である社会の諸問題に対して解決する力を身に付けてほしい、ということであったり、帝国書院は、公民を学ぶことによって夢の実現へとつなげて

ほしいなど巻頭８に『想い』を載せています。

北田教育長　　公民というと、歴史などよりも興味を持ちにくいわけですよね。しかし、公民は必要なことですので、巻頭でなぜ公民を学ぶのかという視点が書いてあるということは必要かと思います。

亥埜委員　　いま、学校教育だけではなく企業でも社会でも、SDGs は大切な視点だと思います。
教育出版は、巻頭 P.1、2 公民学習を始めるにあたって SDGs の 17 の目標、P.71 各国による国連での新たな目標設定 2015SDGs の採択、P.229 持続可能な未来と私たち、巻末に持続可能な未来を目ざす人々など、系統的に学べるようになっていますね。

長谷川委員　　持続可能な社会の実現というのが１つのキーワードですが、例えば、教育出版も東京書籍も冒頭の部分で、持続可能な社会に持続可能な未来予想図ということで、特に、教育出版は「公民の学習を始めるにあたって」というようなタイトルで冒頭にあります。公民というジャンルが中学生にとっては初めての分野ですし、公民とは何かという印象付けとしては「公民の学習を始めるにあたって」というタイトルにも興味がありましたし、教育出版は、SDGs を前面に出しているというのは大きな特徴だと思います。

北田教育長　　今は SDGs と言われていて、環境も貧困も含めてですね。
この辺、今の課題も大きいですが、歴史でもありましたが現代社会、国際問題、人権はいろんな課題がありますので、人権の記述面ではいかかでしょう。

亥埜委員　　どの教科書とも新しい人権について記述があります。
人権は道徳ともつながりますが、話題になっているインターネ

ットやコロナになって中傷を受けて人権問題になっています。
　東京書籍は、P.64 にも印象的な写真や資料を使用しています。もちろん他の教科書も人権に関しては丁寧に取り扱われていますね。

長谷川委員　　教育出版は、人権は元々憲法にある基本的人権からの学び方という印象ですが、記述に特徴と思ったのが、P.48 の、憲法からの平等権について記述があるんですが、これは各発行者にも記述がもちろんあるんですけれども、タイトルで「差別をしない、させない」という表現をしているのは教育出版だけかなと思います。大きめの文字で見出しとして使われているんですが、やはり憲法は自分とあまり関係ない話ではなくて、これは主語が自分だったら自分と置き換えて「差別をしない、させない」というように捉えますよね。こんなふうに、この文字、こういう文言をもってきているのは特徴的だと思いました。

北田教育長　　自分事として考えるというのは大事ですよね。いま、自分事と申し上げましたが、公民という名前のとおり主体的に考えて学ぶという姿勢が生徒には大事かと思います。そう意味でいうと主体的に学べるような構成になっているかという、そういう観点でいうと教科書としていかがでしょう。

伊丹委員　　総合所見にもありましたが、帝国書院の「アクティブ公民」は大変興味深いです。例えば P.23 でマンションの騒音問題を解決しよう、ということや、ディベートをしましょう、とかロールプレイングをしましょう、とか P.91 では裁判員裁判なんかも扱っていて、現代社会でも解決しないような、答えがないような、課題に関して、理解を深めるように工夫されているのが特徴だと思います。

長谷川委員　　章の学習の振り返りをみてみますと、各発行者も工夫されてい

る印象を受けました。

その中でも教育出版は、P.34 からがまず第１章の振り返りなんですけれども、問題形式になっていますし、ステップ１・２があって、次のページが３、テーマが与えられていて、それについてということで考え、まとめを振り返る。なお且つそれを踏まえたうえで、次の学習へとあるんですが、すっきりまとまっている印象です。

亥埜委員　　振り返りでいえば、教育出版が工夫されていると感じました。

P.36 のように資料の活用や学習のテーマについて、SDGs と関連付けながら説明する問いもあり、主体的な学びにより近づけるとともに、中学３年生という段階においても、そして交野市が目指す、言語活用能力の向上という面でも活用しやすいと思います。

北田教育長　　総合所見でも教育出版が高い評価を受けていますが、公民が教育出版を採択することになると、地理、歴史、公民と３種目が３年間教育出版一者となりますが、この点について、事務局、課題等はありませんか。

原課長代理　　課題よりもメリットの方が大きいと思いました。いま、おっしゃったように学習の流れが、学習課題、本文、表現が共通であって、見通しを持って学習が進めやすいということも挙げられますし、章のまとめにつきましても、３分野とも共通して基本的な部分を、まずキーワードを確認して、資料を読んで説明・表現して、最後に単元のテーマについて生徒が主体となって話し合ったりする、という流れになっていて、その上、３年生で学ぶ公民の章のまとめについては、社会科学習の集大成ということで、特に内容の方が充実しているかと思います。

このような点からも、メリットの方が大きいかと思います

北田教育長　　特段、課題はないということですね。

原課長代理　　はい

北田教育長　　そうしましたら、人権についての扱い方とか、あるいは学習の始まりからまとめ方など、みなさんのご意見をまとめると、教育出版「中学社会　公民　ともに生きる」がふさわしいということでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「社会（公民的分野）」については、教育出版「中学社会　公民　ともに生きる」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

各委員　　異議なしと認めます。

北田教育長　　それでは、次に地図の採択を行いたいと思います。地図帳は発行者が２者しかありませんので、２者の比較になります。
　みなさんに意見をお聞きする前に、事務局に質問します。
　東京書籍と帝国書院は判がちがいます。判について、選定委員会や調査員から意見はありましたか。

原課長代理　　東京書籍に関しましては、大きくなりすぎないということで、使いやすさ扱いやすいという意見も出されておりました。ですが、そういう所にも帝国書院は判が大きくて見やすい、交野市の位置が分かりやすいという意見もありました。大きくて見やすいということについて、地図では、重要視されるべきではというご意見がございました。

北田教育長　　大きくて見やすいというご意見があったということですね。
　では、地図についてはこの２者になりますが、お願いします。

亥埜委員　　地図は「見やすさ」「使いやすさ」がポイントではないかと思います。
　東京書籍は、一般図・基本資料・テーマ資料の３部で構成されていますが、帝国書院は、P.51～54 のように地域（州・地方）ごとに基本図・拡大図・資料図がひとまとまりになっていて、学習での使いやすさという点からみると帝国書院はいいと思います。

伊丹委員　　帝国書院は判が大きく、とても見やすいですね。
　P.49、50 のように鳥瞰図を載せているのも、地域をより立体的に把握することができ、イメージがつきやすくて見やすいかと思います。
　一方、東京書籍は P.95、96 などに、歴史のある中国なんかは、当時の建物であったり、実際の場面と突き合わせながら見られるというのはいいかと思います。歴史的分野や公民分野ともリンクして学習できると思います。

北田教育長　　地図ですので見やすさは大事だと思います。最初の世界地図なんかでいうと、判が大きい分、帝国書院の方が見やすいかな、という感じはします。一方、産業の地図記号は、東京書籍が見やすく感じます。
　先ほど地理でもそうでしたが、防災についてどうですか。

長谷川委員　　防災とか自然災害について見ていました。東京書籍は P.151、帝国書院は P.149、同じ内容になっています。帝国書院の判の大きさを活かした大きな図面で分かりやすいという印象があります。地震だけは子どもたちに、とても関心が高いかと思いますが、要所要所、日本の説明の中で、帝国書院 P.108、各地域での防災

という観点での地図とか、結び付けての学習がしやすいのかと思いました。

亥埜委員　　主体的な学びにつなげるという点でも、帝国書院では「地図活用」コーナーがあちこちに先ほどの振り返りのようにあって、ちゃんと勉強したことをちゃんと理解できるように、これも主体的な学びにつながるのではないかと思います。

北田教育長　　主体的な学びということでご意見いただきましたけれども、いかがでしょうか。

伊丹委員　　生徒の身近なところを比べてみると、日本に身近で関係の深いアジア州では、東京書籍は P.４２で、普通によく見る感じですけれども、帝国書院は P.３１で、朝鮮半島が上になって福岡・対馬と釜山がすごく近いんだな、というような感じで、韓国と非常に近いというイメージが持ちやすいかと思います。
　近畿地方について言えば、帝国書院は P.100 以降で詳しく載せていて、自分の身近なところを調べるには、興味が湧いていいと思います。

北田教育長　　みなさんの意見を総合すると、見やすさ、使いやすさだけでなく、防災・自然災害など様々な観点でみても、地図については、帝国書院「中学校社会科地図」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「地図」については、帝国書院「中学校社会科地図」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
　それでは、次に数学の採択を行いたいと思います。数学について、意見はありませんか。

長谷川委員　　みんなそうだと思いますが、算数から数学と教科名が変わっただけで、学習する前から苦手意識、わからないんじゃないか、難しいんじゃないかという印象があるかと思うので、なるべくハードルの低い取っ掛かりがあればと思って見ていたんですが、その点では、東京書籍は見開きが、「数学の世界へようこそ」と書かれていて、文字が少なくて柔らかい印象で、なお且つ、０章として算数から数学へというように丁寧に導入されている印象で、私はいいなと思いました。

伊丹委員　　小学校からのつながりということで、０章を設けることで意識されているのはいいなと思います。数学に入ってノートが書けないとそこでつまずいてしまうというところが意識されていて、東京書籍はP.14・15、啓林館はP.6・P.7にノートの書き方が書かれています。比較してみると、０章からの流れを意識されているので、非常にわかりやすくというか、端的に書かれていてとっつきやすいというか、構成としてはとてもいいのではないかと思います。

北田教育長　　おっしゃったように、ノートづくりは大切です。ノートは家庭での自学自習につながりますので、そういう意味でも、ノートづくりを丁寧に示しているのは非常にいいと思います。その他はどうでしょう。

亥埜委員　　数学の問題というのは、いわゆる中ーギャップになりやすい教科だと思うんですけれども、各段階を何回も振り返って、途中で

できているかどうか、あやふやなまま次に進まれてしまうと、どうしても次が分からなくなってそこが問題ですが、どの教科書も各章ごとにまとめの確認があります。数研出版は 1 年生 P.59、P.60 くらいに。

また、数研出版は発展的な学習として別冊があります。授業で全部取り扱うことは難しいと思うところはありますが、自主学習などにはいいと思います。

長谷川委員　　啓林館は裏表紙から「自分から学ぼう編」ということで、振り返りがあります。QR コードが配置されていて、回答がすぐ確認できるようになっていて、そのページを見れば、すぐに自分から主体的に学びの学習が進められるという印象です。

伊丹委員　　東京書籍は確認問題である章の問題 A、応用問題である問題 B、そして学びを広げようというように、段階に応じて練習に取り組め、そのあたりも意識されているのかと思います。自学自習もそうですし、イメージを持って学習できるのではないかなと思いました。

亥埜委員　　東京書籍は身近な教材を使用している点でも取り組みやすいのではないでしょうか。1 年生 P.114 でのプールの水量や P.179 扇形の導入でピザを示すなど、工夫がされています。

数学は身近にあるということを、特徴とした感覚はあります。

北田教育長　　教員の評価を見ると、東京書籍が非常に高い評価です。また、みなさんの評価もわりとはっきりしています。ご意見をまとめると東京書籍「新しい数学」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「数学」については、東京書籍「新しい数学」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
それでは、次に理科の採択を行いたいと思います。理科について、ご意見をお聞きしたいと思います。

亥埜委員　　教科書のサイズですが、東京書籍は少し縦長になっています。
大日本図書がB5判で、残り３者は同じサイズですね。東京書籍と大日本図書は横幅が狭いので、実験時、机上に教科書を置く際にもコンパクトに収まりそうです。

伊丹委員　　理科においては、実験もされると思うので、ぱっと見て見やすいのがいいんだろうな、という気がします。判の大きさももちろん一つの要素だと思いますし、写真やイラストはどの発行者も掲載されていて、わかりやすく工夫されているのかな、と思います。
例えば、東京書籍や啓林館などの実験のページを見ると、東京書籍P.111、啓林館P.173なんですけれども、同じ実験でも東京書籍の方が、字が大きくはっきりしており見やすく感じます。また、説明も完結にまとめられているように思います。

北田教育長　　最初は判の違いに驚きましたが、そういう意味では見やすいです。判以外のご意見がありましたらお願いします。

長谷川委員　　どうしても印象が強いんですが、どの教科書をみても、授業の流れは「学習課題の把握」「自分の考えをもつ」「実験・観察などで課題の解決」「まとめ・考察・振り返り」という流れになっていますが、東京書籍は課題の解決までの一連の流れがほとんどの

学習課題において見開き２ページになっています。実験等、そして考察、まとめが次ページになっており、学習の流れとしてはとても工夫されていて、見やすさの印象が強いです。

北田教育長　　去年の小学校の教科書の採択の時に、啓林館になったと思うんです。啓林館は、目的→方法→結果→考察、あるいは課題→仮説→計画→結果→考察という形で構成されていて、小学校の教科書も同様の流れであったと思いますので、小中がスムーズなつながりという意味では、理科の授業には啓林館がいいのではないかと思います。

また、東京書籍は、長谷川委員もおっしゃったように、見開き２ページにまとめて見やすくしてあり、生徒にとっては理解しやすく学習しやすい構成になっていると感じました。

亥埜委員　　小中のつながりという意味では、東京書籍や啓林館は、１年生の教科書と２、３年生の教科書では文字の大きさが違うんです。１年生の方が大きな文字になっています。啓林館は、P.193 などにあるように基本のチェック、P.194・195 のような学習のまとめの問題など、学習内容の定着をはかるための問題がとても充実しているように思います。

長谷川委員　　確かに啓林館は、章末の写真や資料なども充実している印象はあります。資料的には充実していると思います。

面白いと思ったのは、1 年生の P.280 には「理科でよく使う数学」は、生徒にとって苦手意識を持ちやすい理科と数学の関係性が詳しく載っていると思います。

理科と数学は子どもたちにとっては苦手意識の第一歩で入口だと思います。また、小学校の算数との関連では教育出版は、1 年生 P.118 にあるように、どうしても質量や濃度では数学との関連が出てきますけれども、そういう細かいところも丁寧に説明がなされているかと思います。「ブリッジ算数」で、数学との関

連は巻末資料に配置していて、わかりやすくなっているかと思います。

北田教育長　　東京書籍は、１年生巻頭での「私たちとつながる科学」で『ある中学生の１日を見てみると』と題して身近な、それこそ、いま、申し上げたように、数学と理科の苦手意識を持つ子もいますが、それは自分の１日を見てみると関連づくんですよ、というところと、苦手意識を低くしてという意味では、工夫されていると思いました。

東京書籍はわりと教員の評価が高かったと思います。

理科については、みなさんのご意見をまとめると東京書籍「新しい科学」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「理科」については、東京書籍「探求する　新しい科学」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

それでは、次に音楽（一般）の採択を行いたいと思います。音楽（一般）について、ご意見をお願いします。

長谷川委員　　教育芸術社は、音楽を学んでいくうえでの学習目標というのがはっきり提示されているのがわかりやすいという印象を受けました。

例えば１年生 P.10 のように、その教材で学ぶ学習目標が左ページの左端に書いてあるんです。歌であってもただ歌うだけではなくて、こういう目標があるんですよ、ということが分かりやす

く書かれていていいと思いました。

亥埜委員　　教育出版は１年生 P.63 で「日本とアジアをつなぐ音」において、アジア地域の音楽を紹介していて、アジアの国々への興味関心、尊重する気持ちを育成する上で工夫がみられます。
　また、２・３年生（下）表紙の「春の隅田川の桜」や１年表紙「尾瀬の風景」など写真がとても美しく、イメージがつきやすいです。

伊丹委員　　教育芸術社も１年生のP.2、３で野村萬斎さん、P.4、５で様々な国の楽器を見開きで紹介しており、様々な国で様々な文化があって、音楽もそうであることを強く印象づける作りになっています。

北田教育長　　先ほどの社会の人権だけでなく、広く文化から世界を知る、国際理解を図るということですね。

長谷川委員　　教育芸術社は、２、３年生（上）で松任谷由実さんを紹介していたり、他にも世代を超えたなじみのある、世界的な歌手や詩人を紹介しているのが印象的でした。

北田教育長　　世代を超えてということがありましたが、交野では今年はできませんが、どの学校も中学校も合唱コンクールや合唱祭と合唱に力を入れているんですが、そういう意味では子どもも、合唱も含めてどの生徒も意欲的に取り組めるという構成の教科書も大事ではないかと思います。
　その点では、いかかでしょう。

亥埜委員　　二中の合唱祭など学校の伝統になっていますが、教育芸術社は段階的に基礎的・基本的な技術が身につくような内容になっていて、本市の子どもたちにとって、ふさわしいかなという気がしま

すね。

伊丹委員　　教育芸術社は１年生の創作のページでもまずは、リズムをつくるところから始められていて、２、３年の（上）のP.12でも同じようなリズムから始まっていて、若干２、３年生の方が難しくなっているということで、子ども達が取り組みやすいイメージが持てるかな、と思います。

北田教育長　　教員の意見も我々委員と同じで、教育芸術社が非常に評価が高かったように思います。
　音楽（一般）については、みなさんのご意見をまとめると教育芸術社「中学生の音楽」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「音楽（一般）」については、教育芸術社「中学生の音楽」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
　それでは、次に音楽（器楽合奏）の採択を行いたいと思います。音楽（器楽合奏）について、意見はありませんか。

長谷川委員　　教育出版は、P.4、５にあるように中学校で初めて使う楽器がアルトリコーダーだと思いますが、とても分かりやすいように表示されていると思いました。
　教育芸術社の方では、P.13～15にパート分けの話が載っています。

どちらも分かりやすい表示であったり、深め方であったりというのが、いろいろ工夫されていると思います。

伊丹委員　教育芸術社のアンサンブルセミナーでは、例えばP.11だと、アーティキュレーションやパートの役割など、どのように演奏すれば、曲にふさわしい演奏になるのかを考えさせるようにしており、この器楽の教科書で何を学ぶのかがはっきり示されていますね。

北田教育長　何を学ぶかを意識することは大事ですね。

亥埜委員　教育芸術社は、P.24やP.27の下にあるように、リコーダーを吹くときによく出されると思われる質問が載せられていて、その答えもとてもわかりやすく書かれています。
リコーダーの苦手な生徒にとって取り組みやすくなるよう工夫されていると思います。

北田教育長　教育芸術社が多く出ましたが、教育出版は、P.60からのレッツプレイで「もみじ」というのが出ていまして、比較的取り組みやすい曲かと思います。それがどんどん進んでいくと、P.72くらいになるとレッツトライ！で「組曲　展覧会から」というのがありますけれども、このあたりから少し難しい曲に取り組むよう、先ほど亥埜委員も合唱でおっしゃいましたけれども、段階を踏んで学習できるように工夫されているように感じました。

伊丹委員　教育芸術社は、箏や太鼓などの伝統楽器を大きく取り上げているだけでなく、P.69にあるように日本音楽の楽器編成、知識や文化の流れも意識して分かりやすく書かれていると思います。P.75では、現在活躍するバンドが取り上げられていて、「バンドの世界をのぞいてみよう」など身近な音楽にも触れるようにするなど、どの生徒にも親しみやすく、興味関心を高める構成になっ

ていると思います。

亥埜委員　　それでいうと、教育芸術社は興味を高める上では、P.39「Challenge！！」で重奏での演奏を選んだり、演奏パートを交代したりするように促していて、生徒の興味関心を高める上でとてもよいと思いました。
　きっと、さまざまな演奏にチャレンジしたいと思う生徒が増えると思います。

北田教育長　　音楽（器楽合奏）については、教員の評価を見てみても、指使いの説明があって使いやすいとか、グループの交流をして取り組めるようになっているとか、そういうこともあるんですけれども、みなさんのご意見をまとめると教育芸術社「中学生の器楽」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい。

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「音楽」（器楽合奏）については、教育芸術社「中学生の器楽」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
　それでは、次に美術の採択を行いたいと思います。美術について、意見はありませんか。

亥埜委員　　どの教科書も判が大きいので、作品がダイナミックで見開きの作品などはとても迫力を感じますね。
　日本文教出版は、１年生の教科書の表紙に原寸大でフェルメールの有名な作品が載せられていて、とても印象的ですね。

伊丹委員　　日本文教出版においては、表紙の見開きで「アニメーションの背景画から風景を見つめ直して」として、アニメの親しみやすさを意識されていますし、美術の学びをスタートさせやすいイメージを感じました。

長谷川委員　　光村図書は、表現方法を詳しく書いていただいていて、例えばP.24、引き方や塗り方、P.62 はいろんな画法を分かりやすく説明されています。美術も好き嫌いがありますが、できる子と苦手な子と大きな差が最初からある教科かと思いますが、分かりやすく工夫がされている印象を受けました。

また、鑑賞では、P.56 のとても大きい写真で「世界の仮面と出会う」は、とても印象的でこういったものは、多分こういうところでしか見ないと思うので資料としてはいいと思いました。

伊丹委員　　日本文教出版は、1 年生の P.14、左上に単元のテーマが明示されていて、右側に３つのマークが書いてあって、非常に目的がわかりやすくなっています。

また、ところどころに QR コードで作品を 360 度回転して見られるのも大変興味深いです。

北田教育長　　伊丹委員がおっしゃったこのページもそうですが日本文教出版の方は、生徒の作品が専門家と同じページに多数載せられているんですよね。どのページもそうなんですけれども、身近な生徒の作品と、専門の芸術作品が同じページにあるというのは、興味を高めるという意味ではいいのかな、とは感じます。

亥埜委員　　日本文教出版は、１・２・３年で３冊に分冊されていて、中学３年間の学びという意味では学習しやすいのではないかと思います。

北田教育長　　美術については、みなさんのご意見をまとめると、日本文教出

版「美術」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「美術」については、日本文教出版「美術」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
それでは、次に保健体育の採択を行いたいと思います。
保健体育は生徒の健康、安全につながる教科であり、現在の状況をふまえて日々の生活や社会の動きにつながるような学びになるかが大切だと考えます。そのようなことを踏まえて、ご意見お願いします。
まず、いま現在の社会状況を考えると、感染症の部分はどのように扱っているのかからご意見をお願いします。

伊丹委員　　どの教科書もイラストや写真を入れながら、わかりやすくつくられているんですけれども、特に気になったのが、大修館は、P.139 にマスクの着用についてコラムに載せています。
また、東京書籍は P.151 に 1918 年にスペイン風邪や緊急事態宣言について掲載しており、まさに今現状に沿った内容になっていて非常に見やすいかと思います。
同じように学研も、P.152、153 で具体的な感染症の例や、感染症患者への差別や偏見など人権上の課題についても言及されていました。

亥埜委員　　東京書籍は今の状況に沿っているかと思います。他の発行者は感染症を性感染症などとまとめて全部書いてありますけれども、

東京書籍はそれぞれに言及されているな、と思います。

北田教育長　　感染症に関する部分以外ではいかかでしょう。

長谷川委員　　私が気になるのは、特に中学生から学んでほしいインターネットと健康についての観点での学習です。各者取り上げていただいていますが、東京書籍は、P.46 で実際の LINE の画面をイラストで取り上げていますよね。これはとても分かりやすいと思います。実際に、方法・手段を聞かれたのを理由を聞かれたのと勘違いしたことがあって、そのままの例があって印象に残ったんです。見やすい分かりやすいという意味では、注目するページだと思いました。そのほかにネットワークに関することですと、大修館は P.105 でインターネット利用した犯罪についてどう危険を回避するのかまで書かれているんですが、こういった点も重要かと思います。

北田教育長　　やはり、インターネットに関する健康面も最近の課題ですし、そういう意味でも各発行者の伝え方ですよね。
　小学校や他の教科とのつながりという点ではどうでしょうか。安全や健康も含めて、それが一貫教育につながってくる、あるいは中学校では高校とのつながり、そういう意味でも広く必要だと思うんですけれども。

長谷川委員　　小学校とのつながりか分かりませんが、分かりやすく、まず見出しで、東京書籍はどの章にもあるんですけれども、P.38「見つける」で学習課題をはっきりされてますよね。そして「課題の解決」で内容について学んで、取組み等がグループワークなんかでされやすいようになっていて、学習の流れがとても分かりやすい印象を受けました。

伊丹委員　　東京書籍は、例えば P.10 左下に「他教科マーク」がついてい

て、他の単元とのつながりが明記されており、保健体育の現単元と他単元、他教科のつながりがわかりやすく、広がりがあっていいと思います。

北田教育長　　感染症も含めてどの発行者も工夫されてあって、保健体育については、みなさんのご意見をまとめると東京書籍「新しい保健体育」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「保健体育」については、東京書籍「新しい保健体育」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
それでは、次に技術・家庭（技術分野）の採択を行いたいと思います。技術・家庭（技術分野）について、意見はありませんか。

亥埜委員　　技術分野は、実習を伴う教科ですので、学習の流れをより具体的に、わかりやすいものがいいのではないかと思います。そういった点から見てみると、東京書籍は、P.20 の単元名のそばに目標やキーワードが示されています。実習例は P.50「テックラボ」の図や写真で紹介されています。
教育図書は、P.12 の単元名の下に学習のめあてやキーワードが示され、文字が大きく理解しやすいと思います。情報に関する学習では、P.210～217、P.252～261 等に実習例が多くあり、いま、交野市がしているプログラミングですね。生徒が見通しを持って取り組みやすくていいです。

北田教育長　　東京書籍と教育図書が出ました。他にご意見いかがでしょうか。

長谷川委員　　教育図書を見ていますが、見出しですが、内容はそれぞれみなさん工夫されていると思いますが、見出しがあって第１章「つくって学ぼう」から第２章「じっくり学ぼう」そして、第３章「学びを深め生かそう」各単元ごとにページ分けされて、段階的に学べるよう配慮されているというように思いました。

伊丹委員　　東京書籍は、学んだことを実践するとか、それを発展させるということを意識されていて、例えばP.68で各章の最後に技術を最適化という側面から問題解決に対して考えるようになっていて、その前に学んだことに基づいてリモコンラックを作ってみましょうとか、作ったものに対して右下のところに、形の工夫ということでさらに実際に即した形に工夫していくということで、学んだ技術をより使いやすくするということを意識しているということで、生徒たちにも考えやすくなっているというところが特徴かな、と思うんです。

北田教育長　　自分自身で考えるとおっしゃいましたが、その通りで先ほど亥埜委員がおっしゃいましたが、教育図書は、P.209以降のようにプログラミング学習についても、来年度から必修化ということで、丁寧に説明しているのが特徴ですね。

これは、生徒が教科書を見て、自ら進んでやってみようとする意識にもつながると思いますね。それでいうと主体的な学び、自分から学んでいこうという、そういう姿勢を育むにはいいと感じました。

他に、いかがでしょう。

亥埜委員　　教育図書の巻末にあるハンドブックをみていますが、実技教科らしく実習時に役立つ工具や機器のポイントがまとめられてい

て、この一冊を見ながら作業できるよう工夫されています。

北田教育長　　技術・家庭（技術分野）については、みなさんのご意見をまとめると教育図書「New　技術・家庭　技術分野　明日を創造する」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「技術・家庭（技術分野）」については、教育図書「NEW　技術・家庭　技術分野　明日を創造する」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
　それでは、次に技術・家庭（家庭分野）の採択を行いたいと思います。技術・家庭（家庭分野）について、意見はありませんか。

伊丹委員　　総合所見にもありますが、開隆堂の P.116、P.117 を見ていますが、写真が豊富で時間配分も書いてありますし、これを見れば料理が作れるかな、と思えるところがあります。
　また、洋食と和食とテーマごとに載っていて、料理に興味が湧くかなと思いました。

北田教育長　　開隆堂出版が出ましたが、他にいかがでしょう。

長谷川委員　　教育図書は P.140 に、出来上がる図だけではなく調理過程もわかりやすく表示されていると思います。取り上げているメニューも親しみやすいと思います。

北田教育長　　いま、開隆堂出版と教育図書の２者が出ましたが、他いかがでしょうか。

亥埜委員　　東京書籍もイラストや写真が豊富にありますが、すっきりとまとまっている印象ですね。

北田教育長　　先ほど、伊丹委員から開隆堂について出ましたが、開隆堂は実習例がたくさんあるんですが、QR コードがあるので、スマホで見たんですが、手元がよくわかってテレビの調理場面を見ているような感じで QR コードはいいかなと思いました。
　また、端にマークがあって「衛生」や「安全」など、子どもたちが注意すべきポイントが表示されているので、工夫されているなと思います。実技教科ならではの配慮がされている印象を受けます。
　「衣服」や「住居」などはいかがでしょう。

亥埜委員　　「衣服」の学習において、どの教科書も扱っていますが、その中で開隆堂は、P.173「生活にいかそう」で制服を性別にかかわらず選択する取組みの広がりを紹介しています。
　最近は女子もスカートだけではなくて、性について新しい考え方が広がっている中、学校生活の中でもとても大切な考え方を示しているかと思います。

北田教育長　　交野の中学校でも、ズボンとスカートの選択ができるようになってますよね。
　他にいかがでしょう。

長谷川委員　　開隆堂のP.59にもLGBTについて参考資料として取り上げられているんですけれども、多様な人々が暮らす地域という単元になっているんですが、自分のすぐ身近なところでも、こういうことを話し合ってみてもいいのではないでしょうか。という問題で

すが、多様性を取り入れた学習も大事かと思います。

北田教育長　　中学校の教員研修でも、LGBT について当事者の方に来てもらって、研修をやっています。
　他にいかがでしょう。

伊丹委員　　実生活とのつながりですが、開隆堂については、P.61 の介護に関する記載があったり、P.246 には消費者被害について詳しく記述されており、これから社会に出ていく中学生の時代にこういったことを学んで、少しでも大人になった時に覚えていてくれたら、というところもありますし、実際に生徒自身がスマホトラブルがあったりとかいうことも聞くので、そういうところでの意識づけがあって、とてもよいかと思います。

北田教育長　　介護の問題にしても現代的な大きな課題ですよね。
　技術・家庭（家庭分野）については、みなさんのご意見をまとめると開隆堂出版「技術・家庭　家庭分野～生活の土台　自立と共生～」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「技術・家庭（家庭分野）」については、開隆堂出版「技術・家庭　家庭分野～生活の土台　自立と共生～」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。
　それでは、外国語　英語の採択を行いたいと思います。
　まず、外国語は今年度は小学校で教科化されていますので、来

年度の中学校新 1 年生は小学校 6 年生で英語の教科書を初めて使用して中学へ入学する初めての生徒になります。そういう意味でいいますと小学校とのつながり、その辺も大事になってくると思いますので、まず、小学校とのつながりの面から英語の教科書の検討、ご意見をお願いします。

亥埜委員　　東京書籍はユニット０で、小学校で学習した表現や会話を中心に丁寧に復習しているのが、小学校とのつながりという面でとても工夫されているなと思います。総合所見にもあるように、小学校で学習した単語がページ左下に掲載されているのもよい工夫だと思います。

三省堂や開隆堂も小学校での学習の復習から意識してスタートしていますが、東京書籍は、P.4、5 にあるように会話を大切にしていると思いました。

北田教育長　　東京書籍はユニット０とありましたが、第１章に入る前に２段階になっています。

他にいかがでしょう。

長谷川委員　　三省堂は、各レッスンが本文、文法、練習、活用という流れで、系統的に学習が進めやすい構成をされています。最初の１年生ですので、あまり苦手意識を持たないほどの量がいいのかと思いますが、私は三省堂の分量が取り組みやすいかなと思いました。

北田教育長　　いきなりたくさんの分量よりも、取り組みやすい分量ですね。

東京書籍と三省堂が出ましたが、他にいかがでしょう。

伊丹委員　　小学校の英語はどちらかというと「表現」が求められて、中学校は「読む、書く」になるので、そこの違いが出てくると思います。教育出版の１年 P.12 ですが、どの発行者もそうだと思いますが、自己紹介に加えて、ネームカードをつくる活動をとおして

読み、書く練習を意識されているのかな、と思います。
　また、１年 P.20 身近な日本語の語順と英語の語順の違いを、これから「書く」というところを意識されているな、と思います。

亥埜委員　　教育出版は、例えば２年生 P.10～15 のように各レッスン３つの Part に分かれていて、学んだことを Part３の後の Review などでまとめの学習を行うという段階的な構成になっています。パターン化されていて取り組みやすいと思いますね。

伊丹委員　　人権については、どの教科書でも意識されていていますが、英語に関してもどの発行者も人権を意識されているかと思います。
　例えば、三省堂は P.113 に、１年生で車いすバスケットや P.127 では環境問題に関して書かれていたり、３年生では佐々木貞子さんついてなど、そういうように、人権、社会問題についても意識されているな、というふうに思います。

北田教育長　　いま、日本国内だけではなく、海外でも人権が大きな問題ですね。
　他にどうでしょうか。

長谷川委員　　人権もそうだと思ったんですが、そうやって英語を勉強しながら別の分野にも目を向けるという意味では、例えば教育出版では、１年 P.111、２年 P.19 から環境や自分の生活につながるようなものが題材になっている内容を取り上げられています。単なる英語の勉強だけではなく、社会的な世界的な課題などもつながって考えられるような大きなポイントだと思います。

北田教育長　　グローバルな視点ですね。

亥埜委員　　全体的に非常にグローバルな内容になっていますね。東京書籍は、１年生 P.87 で国際理解や貧困について、２年生では P.71

のユニバーサルデザイン、３年生で P.71 の平和についてガンディーの考えと関連づけて取り扱われています。

開隆堂では２年生で黒人差別 P.69 や平和 P.99 について、３年生では P.100 マララ・ユスフザイさんの演説についても掲載されていて、グローバル的に載せているのがとても印象に残りました。

北田教育長　今は、英語は言葉を学ぶだけではなくて、英語を通じて世界を学ぶという意識が必要なのかと思います。

交野でも英語に力を入れていて、これまでの市の研修とか英語の弁論大会でも、指導講師の方に来てもらっていますが、コミュニケーションでも、「ただ英語を使うのではなく相手を意識したコミュニケーションが大事です。」とおっしゃっています。そういう力についても大事ですし、それから昨年度の全国学力・学習状況調査では、単語を覚えているとかではなく、与えられたテーマについて自分の考えを整理し、それをどう表現するかがこれからは大事になってきます。

そういう相手を意識したコミュニケーション、あるいはいろんな感情を自分で整理して表現する。そういう意味でいくと、各観点に力を入れていると思うんですが、教科書を見られて特徴とかご意見がありましたらお願いします。

伊丹委員　教育長がおっしゃるように、試験になると読んで書いて、という形になってしまうんですけれども、最終的に言語は使っていく事が大事になっていくので。そういうところで、使えるかどうかを意識されているかどうかで言うと、教育出版は２年生の P.11、13 など、ほとんどの奇数ページ左下に「Think＆Try」を配置し、習った表現を使って、すぐに会話につなげられるよう工夫されていますね。

また、東京書籍の１年生 P.64 の「Let‘s Talk」では、学んだ表現を使って実際に使ってみようというような、段階を踏みなが

ら対話を行うようになっています。学習したことをどう日常生活に生かしていくかが大切なポイントとなることから、この「Let's Talk」は工夫されていると思います。

北田教育長　　段階的にコミュニケーション能力が付けられるということですね。
いま、東京書籍と教育出版が出ましたが、他にどうでしょう。

長谷川委員　　東京書籍の１年生 P.56 に着目しました。対話、コミュニケーションというのが P.64 のような「Let's Talk」のページを活用するのも大事ですが、ここで「Small Talk」では、相づちをうったり、こういったもので、よりスムーズなコミュニケーション、質問内容もこのページだと答える方も答えやすい質問になっていて、必ず対話ができる、発せられた言葉に対して相づちを打つというような練習もこのページでできて、とても工夫がみられていると思います。

亥埜委員　　どの教科書にもほとんどのページに QR コードが配置されています。その中で東京書籍の QR コードは、日本語で書かれていて、生徒にとっても使いやすいものになっていると思います。

北田教育長　　教員の意見を少し見ても、東京書籍を評価していますね。そのあたりも総合して、交野の子どもたちの、今の現状に合っているという意味でいうと、外国語　英語については、みなさんのご意見をまとめると東京書籍「ＮＥＷ　HORIZON English Course」がふさわしいということでよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「外国語　英語」については、東京書籍「ＮＥＷ　HORIZON English

Course」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

それでは最後に道徳の採択を行いたいと思います。

最初に３点事務局に質問します。

１つ目は、昨年度から中学校で「特別の教科　道徳」ということで教科化されました。実質教科書が使用されて 1 年と少しです。今年度まで使用した道徳の教科書についての教員の評価はどういうものなのでしょうか。

２つ目に、もちろん基本は内容ですが、大きさ、サイズ、紙の質について選定委員や調査委員から意見は無かったのでしょうか。2 者だけ他者とは違います。

３つ目は、日本教科書は題材が１～3 年すべて 22 です。東京書籍は、題材が１～3 年すべて 28 と付録５と別に 1 年なら「橋の上のおおかみ」、郷土のことを考える。ということで合計 35 になります。教育出版は 30 と補充教材５で 35、光村図書は 31 と付録４で 35、日本文教出版、学研は 35 です。基本は年間 35 で授業を組んでいることになっていますが、このへんの数の違いは議論にならなかったのでしょうか。

原課長代理　　まず、現在使用している光村図書ですが、教材がそれぞれ内容項目において配慮されております。ですけども、１つ１つの教材を見ると、指導する側にとっては内容を深めていくのに若干ではありますが、物足りなさを感じる意見はあります。

２つ目は、大きさ、サイズ、紙の質につきましては、紙の色について意見が出されておりました。光村図書については紙の色がアイボリーになっていて、暖かい感じが伝わってくるという意見が出されておりました。

３つ目ですが、内容項目の取扱いの数に関しましては、議論に

は上がらなかったんですが、特に保護者の立場で考えたときに、喫緊の課題であるいじめの取り扱いについてしっかり学んで、生徒自身が自分事として考えてほしい、そのための教材が充実している、そういう教科書を選定したいということで、そういうことが議論の中心となっておりました。

北田教育長　　１つ目は、今年度の使用教科書については、バランスはいいが教員からすると指導する上で内容を深めるのは物足りない。

２つ目は、議論にはならなかったが、色については光村のアイボリーが暖かくていい。

３つ目については、内容等については議論にならなかったが、いじめの取り扱いを生徒に自分事として考えてほしいということで、その議論が中心ということですね。

道徳は一方的な価値の押し付けではなく、考え、議論する道徳といわれるように、生徒が主体的に学んで、自分で判断できるような、そういう力が付くような授業が求められます。

その観点から、まずご意見をお願いします。

長谷川委員　　主体的にただ聞くだけの授業ではなく、自分から考える教科書がいいかと思います。東京書籍は巻末に心情円やホワイトボードが付いています。授業の中でも活用できればいいかなと思いました。

後は、各単元ごとにつぶやきという、ただ線だけの枠があり、これは自由に考えたことを書きとめたり、受けた印象や思いなどを自由に書き込んで、使用の仕方だと思いますが、自分のこととして、直接誰かとしゃべらなくても、学習できるヒントといいますか材料になるという印象を受けました。

北田教育長　　活用しやすい教科書、先ほど今、教科書を使ってみて教員の感想を聞いたときに、「バランスはいいけど内容が深めにくいです。」という意見がありましたが、活用しやすい教科書にしたい

です。

伊丹委員　　前回道徳の教科書を採択するときも話題に挙がったんですけれども、単元ごとに発問といいますか、どう考えるかということが書いてあって、それが詳しい方がいいのか、簡潔な方がいいのかというようなことが議論になったと思うんですけれども。先生方が道徳の指導をされてきて、結局のところ先生がどういうふうに指導するのがやりやすいのか、ということが重要だと思いますので、今日もこういう観点で考えたいかと思っています。

どの発行者も発問の記載があるんですけれども、東京書籍は、導入の発問がなく、最後に質問があり、そういうところで本文の後の「考えよう」や「自分を見つめよう」も意識していただいているのかと思いますし、先生の方で考えてもらうというところでは、使いやすい点もあるかな、とは思います。

北田教育長　　前回、中学校の道徳の採択時にも、中学校の校長先生から、あまりいろんな質問が書いてあると、それに沿って授業をしないといけないので、それはやりにくいのでできるだけ少ない方がいいけども、教員も道徳の授業がそこまで深く掴めていないのでというようなことで採択していったんですが、そういった意味では、教科化が進んで教員も道徳の授業を自分の力でできるので、授業技術も進んで先生方も上手になられたのかという気はします。

亥埜委員　　道徳を教科書で教えるというのは難しいことだと思います。教育出版のいじめに関するP.46からP.53、光村図書のP.30からP.33、そのページの最後に、教育出版の「学びの道しるべ」や光村図書の「考えよう」など、大切なことはなんだろうか、というようなところを議論していくのが道徳ではないかな、と思うんです。教育出版は漫画でとてもわかりやすく書かれていて、こういうふうな取組みはいいのではないかな、とは思いますけれども、そこはいろいろ意見が分かれるところかもしれません。

北田教育長　　子どもたちが考えて議論して自分事として捉えられるのが一番いいと思います。それでいうと、先ほど事務局からもありましたように、選定委員会、特に保護者の方から、いじめについて社会の大きな問題ということで、その辺についての評価やご意見が大きかったと聞きましたが、総合所見でも命の尊さとか、いじめについてということで書かれておりますが、委員のみなさん、その辺いじめについて各発行者どのようなご意見でしょうか。

伊丹委員　　どの教科書とも、さまざまな教材の中でいじめについていろんな角度から考えるように扱っています。

光村図書では、１年生 P.34 でいじめをなくすにはどうするかを考えよう、というようなことを取り上げられていたり、２年生でもいじめに関しては意識されている感じがします。

日本文教出版も１年生 P.34 で図などを用いて、いじめって何、ということで考えてもらうというようなこととか、いじめに向かうその背景事情であるとか、それぞれの心の状況とか、そういうのも考えさせられたり、あるいは他校の取組みなども書いていて、いじめに対する意識というのはわかりやすいかな、と思いました。

北田教育長　　いじめについては、意見が選定委員会でも多かったということですが、他にいかがでしょう。

長谷川委員　　２者同じ題材があることに注目しました。教育出版２年生 P.92、東京書籍 2 年生 P.24。この２者とも 2 年生で「わたしのせいじゃない」を扱っています。

いじめが背景にありますが、大きな違いは、教育出版は国際的な問題、写真も載せていますし、貧困につなげた問題になっています。東京書籍は、最後にもう一枚絵が付いていて、「考えよう」「自分をみつめよう」のところで、実生活の自分事として考えてみましょう、というような問題提起の仕方になっています。ここ

が大きな違いだと思います。使っている字体も違いますし、印象とかが違ってくるんですが、より自分事としてというのであれば、身近なのは東京書籍の方かという印象を受けました。

亥埜委員　　東京書籍の、その後の教材で P.28「あの子のランドセル」そして、その次の教材 P.31「「いじめ」についてあなたはどう思う？」は生徒たちがより具体的に、そして自分事として考えられる教材であり、先生方も授業を組立てやすいのではないかと思います。

伊丹委員　　東京書籍には、２年生にも同じようなテーマがありますし、１年生にも同じテーマがあって、いじめられている子もそうだけれども、まわりの子やいじめている側の心情にも言及して、そういうところも意識しましょうということだと思うんですけれども、
　１年生 P.25「傍観者でいいのか」ということでまわりの子の心情であったり、やP.172「いじめっ子の気持ち」など、いろいろな立場に立って考えられるように工夫された教材と思いました。

北田教育長　　皆さんの意見を総合すると、どの発行者も考えてつくられていますし、子どもたちにふさわしい教科書だと思うんですが、特に保護者の方、社会的に問題意識の高いいじめを考えると、東京書籍の方が子どもたちや指導する教員にとっても、使いやすいのではないかということで意見をまとめさせていただいてもよろしいでしょうか。

各委員　　はい

北田教育長　　それではお諮りします。令和３年度使用中学校教科用図書「道徳」については、東京書籍「新訂　新しい道徳」を採択することに異議はありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

ここで、中学校の採択が終わったんですが、令和３年度使用の小学校の教科用図書の採択を行いたいと思います。選定委員会の答申では採択調査は行わず、現在使用している教科書がふさわしいということでありましたので、それについて質疑意見はございませんか。

各委員　　質疑なし

北田教育長　　それではお諮りいたします。「令和３年度使用小学校教科用図書」につきましては、現在使用している教科用図書、

国語　　光村図書出版「国語」
書写　　日本文教出版「小学書写」
社会　　教育出版「小学社会」
地図　　帝国書院「楽しく学ぶ　小学生の地図帳３・４・５・６年」
算数　　東京書籍「新しい算数」
理科　　新興出版社啓林館「わくわく理科」
生活　　新興出版社啓林館「せいかつ」
音楽　　教育出版「小学音楽　音楽のおくりもの」
図画工作　日本文教出版「図画工作」
家庭　　開隆堂出版「小学校　わたしたちの家庭科」
保健　　学研教育みらい「みんなの保健」
外国語（英語）　光村図書「小学校　英語　Here　We　Go！」
道徳　　光文書院「小学校　道徳　ゆたかな心」

が相応しいということで、これを採択することにご異議ありませんか。

各委員　　異議なし

北田教育長　　異議なしと認めます。

これにて、令和３年度使用小・中学校教科用図書の採択は以上のとおり採択することといたします。

以上で日程３　議案第 37 号「令和３年度使用交野市立　小中学校　教科用図書の採択について」を終わります。

これをもちまして、第 10 回教育委員会　臨時会に付されました案件の全てが終了いたしました。

これにて臨時会を終了いたします。

交野市教育委員会会議規則第２０条の規定により署名する。

交野市教育委員会　　教育長　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

委　員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿